今週（4月4日から4月8日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週の無担保コールO/Nは▲0.015～▲0.01%の出会いが中心となった。0%での出会いも多少見られたため、無担保コールO/N加重平均レートは先週（除く31日）とほぼ同様の推移となった。週初4日は税・保険料揚げの要因があったものの、同時に普通交付税交付金の払いもあり、先週と比べて地銀から運用希望が増えた反面、ビッドサイドで調達を取りやめる先も見られたため、無担保コール市場残高は先月と比べて減少した。ターム物は、一部で運用レートを切り下げた先が見られたことで、1W物で▲0.03%、1M物で▲0.04%の出会いが観測された。

固定金利方式の共通担保資金供給オペについては、7日に2W・8,000億円がオファーされた。1,480億円の期落ちに対し、応札額は580億円にとどまった。

16日以降のマクロ加算の掛け目（＝基準比率）については、「各月の積み期間の概算日の概ね5営業日前に公表することを想定する」とされており、11日に発表されることが見込まれる。

●レボ市場

今週のGC O/N物は▲0.105～▲0.060%近辺の広いレンジでの出会いとなった。4日から7日のT/Nは▲0.090%近辺でのビッドが非常に厚く、その近辺を中心とした引き合いが多く見られた。7日のS/N(4/11-4/12)は短国発行要因を反映した業者のファンディングニーズから、▲0.090～▲0.060%の水準で推移する展開となった。8日のS/N(4/12-4/13)は短国買入オペが通知されたものの、投資家の資金調達ニーズが強く、▲0.080～▲0.060%の出会いとなった。SC個別銘柄では、10年335～342、20年153～156、30年46～50などカレント近辺の銘柄にビッドの出入りが多く見られている。

●短国市場

短国市場は、先週に入札が無かったことに加え、三日連続で入札が実施されることもあって、5日の3M物は慎重姿勢が反映された入札結果となった。反面、6日の6M物と7日の3M物は強めの入札結果となり、その後は全般的に強含みの展開となった。

5日に実施された3M物の入札は、WI取引で▲0.100～▲0.097%の出会いが見られる中、平均落札利回りは▲0.0949%、按分落札利回りは▲0.0850%と若干甘めの結果となった。6日に実施された6M物の入札は、WI取引での出会いは無く、▲0.15～▲0.13%程度での気配の中、入札結果は平均落札利回り▲0.1713%、按分落札利回りは▲0.1574%となった。その後のセカンダリーでは、一時、▲0.32%まで買われる場面も見られるなど、短国買入オペを睨んだ相場となった。7日に実施された3M物の入札は、WI取引で▲0.11%でまとまった出会いが見られる中、平均落札利回り▲0.1214%、按分落札利回り▲0.1082%と強めの結果となった。入札後は短国買入オペを睨んだ展開から全般的に強含みとなり、3M物で▲0.50%、6M物で▲0.35%と強めの出会いが見られた。8日には短国買入オペが市場の予想よりもやや少ない17,500億円で実施され、平均落札利回り格差0.053%、按分落札利回り格差▲0.014%と甘い結果となった。入札参加者の公平性を維持するため、応募限度額が四分の一に設定されたことが影響したと見られる。

●CP市場

CP市場は、年度末を越えたことでCP調達再開の動きが見られた。石油・商社、特に鉄鋼業態において大型の発行案件があったため、週間償還総額2,500億円強に対して、発行総額は5,000億円程度に膨らんだ。証券保管振替機構は4日にDVP決済によるマイナス金利での発行にシステム対応し、一部の資金決済会社もマイナス金利のシステム対応を整備したものの、マイナス金利での発行案件は観測されなかった。発行レートに引き続き変化は見られず、a-1格銘柄は概ね0%近辺での発行となった。

6日にはCP等買入オペが2,500億円で実施された。3月期末を越え、応札可能な銘柄が大幅に増えた一方、オファー額が減額されたため、入札結果は平均落札利回り▲0.021%・按分落札利回り▲0.045%と、平均・按分共に前回比で大幅に上昇した。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%）	日銀当座預金残高 （億円）
4/4（月）	16,123.27	△ 0.085	111.50	△ 0.007	△ 0.091	2,755,200
4/5（火）	15,732.82	△ 0.070	110.85	△ 0.007	△ 0.097	2,761,000
4/6（水）	15,715.36	△ 0.065	110.40	△ 0.007	△ 0.088	2,778,900
4/7（木）	15,749.84	△ 0.060	109.27	△ 0.007	△ 0.091	2,756,100
4/8（金）	15,821.52	△ 0.085	108.74	△ 0.012	△ 0.070	2,773,900

来週（4月11日から4月15日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
4/11 (月)	第91回信託大会にて黒田総裁講演 2月の機械受注統計(内閣府 8:50)				
4/12 (火)		10Y物価 4,000億円 4/14発行	エネルギー 6,000億円 4/20発行		3月の米財政収支 3月の英消費者物価指数
4/13 (水)	山口県金融経済懇談会にて原田審議委員講演 3月のマネーストック(日銀 8:50) 3月の企業物価指数(日銀 8:50)	TB2M 発行中止			米ページブック 2月の米企業在庫 3月の米生産者物価指数 3月の米小売売上高
4/14 (木)	2月のマネタリーサーバイ(日銀 8:50)	TB3M 44,000億円 4/18発行	30Y 8,000億円 4/18発行	交付税借入 10,500億円 4/22借入	英中銀MPC結果発表 3月の米消費者物価指数 3月のユーロ圏消費者物価指数改定値
4/15 (金)	2月の特定サービス産業動態統計速報(経済産業省 13:30) 2月の石油等消費動態統計(経済産業省 13:30)				3月の米鉱工業生産・設備稼働率 4月のミシガン大消費者信頼感指数速報

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
4/11 (月)	1,600	▲ 30,500	▲ 28,900	全店共通 CP買入 国債補充	▲ 1,500 ▲ 400 1,300	600 2,500	2,500	▲ 26,400	TB3M発行▲44000償還44400 TB6M発行▲35000償還7900 流動性供給▲4000
4/12 (火)	1,000	2,000	3,000	短国買入 国債買入		17,500 4,700	22,200	25,200	
4/13 (水)	0	2,000	2,000				0	2,000	源泉税揚げ 社会保障費
4/14 (木)	0	▲ 2,000	▲ 2,000				0	▲ 2,000	10Y物価連動発行▲4000
4/15 (金)	▲ 1,000	70,000	69,000				0	69,000	年金定時払い TB2M発行中止 2Y発行▲23000償還11200 交付税借入▲10500期日10500 個人向け3Y・5Y・10Y▲発行4000 個人向け3・5・10Y償還5000
週間合計	1,600	41,500	43,100	—	▲ 600	25,300	24,700	67,800	

4/11は日銀予想、4/12以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、日銀当座預金増減要因見込みによれば、11日はTB3M、6Mの発行超過による大幅不足、15日は年金の定時払いによる大幅余剰が見込まれている。また、各紙報道によると信託銀行が投資信託に対して0.1%の手数料を要請している模様である。手数料よりも有利なレートであればマイナスでの運用を行うことも考えられ、週末にかけてターム物を中心に金利水準が一段と切り下がる可能性も考えられる。

短国市場は14日に3M物の入札が予定となっており、順調な結果が見込まれる。

CP市場は、15日にCP等買入オペがオファー額3,000億円と、先月発表の予定より500億円減額されて実施される予定となっている。

主要なイベントとしては、12日に3月の英国CPI、13日にページブック、14日に英中銀MPC結果発表・3月の米国CPIなどが予定されている。

- ◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- ◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
- ◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。